

外資から新たな飛躍へ

全社一丸の意識革命

（三野村利左衛門）は幕末維新の動乱期、豪商たちが次々と倒れていくなかで新しい時代の波を捉え、銀行へ、商社へと発展を続けた三井組の柱石。自ら齎（あづか）りザンギリ頭になって「チヨンマゲの古い人間は要らない」と宣言した。企業の転

換期には社員一人ひとりの意識革命が必要であり、従来までの常識を打破する気が求められる。そこからまた新しい概念が育ち、企業も上昇、伸展するものだ。ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ(株)（代表取締役社長・鈴木 努氏）は、

1997年にケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ社（本社・米国）の日本法人として誕生し、2001年には米国ノベル社と併合、そして2006年に日本ユニシス傘下となって、新たな伸展と進化を目指している白眉のコンサルティング会社。「お客様の目標に向けたスピーディーな変革をファシリテートする」というミッションを主軸とした、ビジョン、価値感、行動原則の確立がその源泉だ。またスピード導入サービス、ファシリテーション型コンサルティング、成果保証サービス、一貫性、中立性、カルチャーといった独自のビジネス・モデルも、高いプロジェクト成功率を支える要因と言えよう。上流から下流まで、IT/非IT領域までもカバーする手法を体系化した先進性も同社ならではの特色。外資から国内大企業のグループへとという転換を果たし、まさに社内一丸となって意識革命し更なる飛躍と成長の時である。

江東区豊洲1-1-1